ティーチング・ステートメント

所属　総合教養センター
名前　林　剛司
作成日　2023.2.22

【責任】

総合教養センターに所属し、「英語」関連の教育・研究活動を行なっている。英語関連科目(「English Conversation」「ビジネス英語」「国際理解」「ゼミ」など)の授業を担当、国際交流、留学に関する教育を担当している。

【理念】

学生には現在学習していることが、将来のキャリア形成とどう結び付けることができるか、あるいは直接キャリア形成とは結び付かなくとも、自分自身の生活や人生をより豊かなものにするためにどう結び付けるかを考え続けてほしい。充実したキャリアを形成するにあたり、専門性を身につけていくことが必要とされていることは言うまでもないが、「教養」を身につけていくことも、今後グローバル化社会を生きていく学生にとっては重要になってくることを、授業を通して示していきたい。

今後学生達がグローバル社会でキャリアを築いていくにあたり、自分とは異なる国籍、価値観、アイデンティティを持つ人たちと仕事をしていくこともあるだろう。そのような人たちと仕事をしていくためには、相手のことをよく理解するところから始めなければならないが、その際に「教養」「外国語（英語）」が必要不可欠となる。このことを授業を通じて示していきたい。

【方針・方法】

上記の理念を実現するために、ここでは＜英語＞の授業に絞り、以下に「方針」と方法を示す。

「学習の習慣化」

・英語は日々の学習が必要で、週に 1 回しか授業がない中、次の授業まで自分で何も学習をしないならば英語の定着は望めない。そのため、毎回の授業で「小テスト」を行う。小テストのための勉強をすることが、授業の復習になり、授業内容をよく復習することによって、次の学習内容がよりよく理解できるということを経験してもらう。「小テスト」に向けて、教科書本文を繰り返し音読したり、筆写するよう指示する。音読については、希望者は音読を録画し、動画として提出させる。

「基礎知識（ルール）の習得」

・英語の 4 技能（reading, listening, writing, speaking）を満遍なく向上させるためには、基礎知識の習得は欠かせられない。基礎知識とはすなわち言語の「ルール」であり、具体的には「文法」ということになる。文法の習得のために、徹底的な「練習問題」演習を授業で行う。

「基礎知識を応用に繋げる」

・練習問題をこなすことは言うまでもないが、練習問題をひたすらこなしていくことはともすれば単調な作業になり、挫折の要因となりうる。したがって、授業では、文法

の練習問題を解いていくと同時に、その文法事項が、実際の会話や読み物の中にどのように現れてくるかを、教材を聞いたり読んだりする中でまずは学生達に見つけてもらう。難解な読み物だと学生の気づきの機会が少なくなるので、易しい読み物や会話文を使用する。そのために、Graded Readers（GR）をテキスト、または補助教材として用いる。
・最終的には、基礎知識の習得→気づき→応用、と進めるような授業を組み立てる。

【成果・評価】
・アンケートを取ったところ「英語（単語や文）がなかなか覚えられない」という学生が多かったため、教科書の「音読」「筆写」を勧めたところ、実践した学生達から「よりよく覚えられるようになり、さらに英語が長期記憶に留まるようになった」という感想を得た。

【目標】
・現在、私の授業では、学生達にとってやや難しいと思われる教科書を使っているが、教科書選定について、同授業を担当する教員間で意見交換を行いたい。
・本学の授業では文学作品の retold 版や、GR をテキストとして使用したことがないが、私のこれまでの経験から、これらが特に英語に対して苦手意識を持つ学生にとって有効であると考えられるので、GR を授業に導入している事例を集め、研究、導入したい。現状としてはいきなり授業へ導入するのは難しいため、GR を中心に扱う（GR で学ぶ）少人数選択制の授業を実施する、あるいは少人数のゼミや留学準備のための授業（「国際理解」）に導入する方法を考える。